

利用案内 1

表大雪エリア

Otoedaisetsu

この公園の最北部で、旭岳周辺のエリアである。黒岳と旭岳の中腹までロープウェイがかかり、登山は比較的容易である。層雲峠や天人峡の探勝は、p24~25を参照されたい。
旭川市が利用の起点となり、バスまたは鉄道とバスを乗り継いで公園に入る。

黒岳 (1,984m)

層雲峠温泉からロープウェイとリフトを乗り継いで高度約1,500mまで行き、残りの480mを登ると黒岳山頂である。大雪山中央火口が見渡せる。山頂は狭いが、その先の稜線は幅広い。周辺一帯はコマクサなど植物の種類の多いところだ。黒岳から「御鉢平」と呼ばれる火口縁に沿って北鎮岳の裾を巻き、裾合平から旭岳ロープウェイまで行くのがポピュラーなコースだ。アップダウンは大きくなるが火口の反対側を周り、旭岳を越えてロープウェイまで行くこともできる。



御鉢平



黒岳五合目の展望

沼ノ平



当麻乗越から見る沼ノ平

旭岳温泉の北にある愛山渓温泉から登る。愛別岳中腹標高1,400mに広がる静かな湿原で、池塘が美しい。当麻乗越を越えて裾合平へ至るコースがある。



愛山渓から沼ノ平へ

銀泉台から赤岳 (2,078m)

赤岳の麓、銀泉台までは層雲峠温泉からバスがある。第一花園、第二花園を経て赤岳に登れば、表大雪の山々が望める。赤岳から小泉岳にかけては、山体が古くから形成されており、リシリリンドウやキバナシオガマなど、希少植物の多いエリアである。



シリリンドウ キバナシオガマ



赤岳山頂から旭岳方面

旭岳 (2,291m)・裾合平



旭岳とチングルマ

旭岳温泉から標高約1,600mの姿見駅までロープウェイがある。噴煙を盛んに上げる旭岳の馬蹄形の火口が正面に見える。旭岳や黒岳方面への登山の出発点であるが、短時間の探勝には、近くの姿見池と夫婦池やその先に広がる裾合平を巡る探勝路がある。裾合平にはチングルマの大群落があり、花咲ぎや紅葉期には見事だ。姿見駅と麓の温泉駅の間には歩道もある。

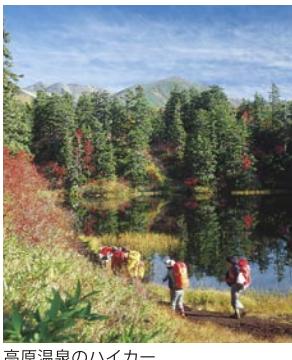
旭岳にはあまり植生のない、砂礫の道を登る。黒岳を経て層雲峠には、火口縁のどちらを回っても行くことができる。



高原温泉・沼めぐり

高根ヶ原の下に広がる森林内には、多くの小さな池沼がある。高原温泉を出発点として沼を巡るトレッキングコースは、秋の紅葉の時期には特に人気が高い。

この時期はマイカー規制をしているので事前の確認が必要。高原温泉までは層雲峠からバスがある。歩道入り口にあるヒグマ情報センターで、必ずレクチャーを受けてから出発しよう。ヒグマと遭遇する危険があるときは、歩道が閉鎖されることもある。



高原温泉のハイカー



全山を染め上げる紅葉

大雪山の紅葉は早く、9月半ばを過ぎる頃に高山帯からはじまる。ウラシマツツジやチングルマなどの小さな植物が燃えるような赤に色づくのだ。

紅葉は急ぎ足に山を下り、やがて森林帯にはいると、ナナカマド、ダケカンバ、エゾイタヤ、カツラなどの木々が、赤や橙や黄に染まり、全山を艶やかな錦で飾る。雪がすべてを覆い尽くす直前の、植物たちの饗宴である。高原温泉周辺の紅葉は特に鮮やかである。



駆けおりる大雪山の秋

トムラウシ山周辺

大雪山の中央火口より南、高根ヶ原からトムラウシ山にかけての区域は、この公園でも、最も「カムイミンタラ」の名にふさわしいエリアである。広大な台地、見渡す限りのお花畠、各所に見られる周氷河地形など、天上的な世界が展開する。

このエリアは日帰り登山が困難で、避難小屋を利用するかテント持参で行動するしかない。十勝連峰などを含めた大雪山地域には、日本アルプスにあるような設備の整った山小屋はない。黒岳石室と白雲岳避難小屋は夏季のみ管理人がいるが、そのほかの忠別岳、ヒサゴ沼などの避難小屋はすべて無人である。また、キャンプは指定地以外は禁止されているので、登山に当たっては、各地のビジターセンター等に問い合わせて最新の情報を得たうえで、慎重な計画を立てるとよい。主なルートは無雪期なら技術的にむずかしいコースではないが、距離が長く、上級者向きである。



沼ノ原からトムラウシ山へ



トムラウシ山の縦走路

Column

北海道の氷河の痕跡

北海道の氷河地形としては、大雪山系の南方にある日高山脈のカール（小規模の氷河が作った半円形の深い谷）がよく知られている。日高山脈より標高の高い大雪山にも各所にカール状の地形があり、モレーン（氷河堆石）のような堆積物はあるが、それが本当にカールであるかどうかは、いろいろな議論があって、すべての研究者が認めるには至っていない。それは、現在の山体を作った大雪山の火山活動が、氷河が発達した最終氷期よりも後、より温暖な時期まで続いていたと考えられているからであり、爆発火口がカールに似た地形になることも一つの理由である。



ポンチワタイのお花畠